

## 水田・里山放牧ニュースレター

## 第 2 号

2003 年 11 月 14 日

発行 水田・里山放牧推進協議会

事務局 畜産草地研究所（那須）

〒 329-2793 那須郡西那須野町千本松 768

TEL 0287-37-7003 FAX 0287-37-7132



大田原市琵琶池中村牧場の水田放牧

### 第2回水田・里山放牧推進協議会開かれる

10 月 29 日に西那須野町の畜産草地研究所（GG ホール）で第2回水田・里山放牧推進協議会が開かれました。近畿中四国農業研究センターの小山チーム長から「中国地方の里地放牧技術の紹介」というテーマで中国地方の水田・里山放牧技術の紹介がありました。その後、那須町の水田 - 肉用繁殖牛複合経営の伊藤昇さんを訪ねました。

伊藤さんは 水田約 3 ha 飼料畑・草地約 4 ha で繁殖和牛成雌 17 頭を飼養し、今年から 2 ha の草地に牧柵を張り、1 番草収穫後、3 ~ 5 頭の牛を放牧（6 月末から）しました。

#### 参加者のコメント

伊藤さんに電気牧柵設置のコストや今まで経験した問題点など説明していただき、脱柵の問題では、馴致の重要性と牛の性質を充分考慮すべきこと。草地管理では、水飲み場の周辺の裸地化について対策が必要であると感じました。

2 ha という草地を利用した放牧体系は、これから放牧を進める上で実践的な規模であると思いました。実際の放牧場を自分の足で歩くことにより、草や牛の状態を確認でき大変勉強になりました。（群馬県畜産試験場 茂木浩徳）



#### 那須町 伊藤牧場見学会

小春日和の注ぐ中、2 ha の平坦な地に牧柵を張りのんびり草を喰む牛の姿が見られ、正にアメニティ空間そのものであった。それ以上に、牧場主やパートナーである奥さんがこの取り組みを喜んでいるとの話がとても印象的であった。当管内でも、少しずつではあるが水田・里山の放牧を推進し年々増加をしているところである。これからも、数多くの喜びの声が聞こえるよう取り組んでいきたい。（栃木県南那須農業振興事務所経営普及部 岩渕守男）

#### 那須に放牧利用研究会発足！

最近放牧を導入する農家が増えている那須地区で、20戸ほどの肉牛農家、酪農家が参加する放牧利用研究会が発足する予定です。那須地区には先進的な放牧導入農家がいることと、那須農業振興事務所畜産課の積極的な取り組みが功を奏しました。情報交換会にも積極的に出ていただいて、失敗の少ない形で放牧利用を進めて欲しいものです。

中国地方の里地放牧技術の紹介

近畿中国四国農業研究センター 小山信明チーム長

## 1. 参考書

初めて放牧を行う人を対象にした放牧マニュアル「どこでも放牧」(島根県川本農林振興センター)、牧柵と飲水器(中国農業試験場)、耕作放棄地の牧養力とセンチピードグラス草地の造成法を紹介した。この中には、電気牧柵を利用した耕作放棄地の放牧利用に関する基本的な技術が書かれている。

## 2. 自主的に放牧を始めたきっかけ

(1) 放牧を初めて行った人の手記(島根県大田市:繁殖農家)

近年、全国的に和牛の頭数が減少していく中であって、私達のグループも例外ではなく、いかにして減少を食い止めるかが大きな課題となってきた。そこで、思いついたのが地域の環境保全をも兼ねた水田放牧である。

平成4年に山口県油谷町で水田放牧に取り組んでいると聞き、私達はこの取組がひとつの解決策になるのではないかと期待を持ち婦人部、JA畜産課と共に視察を行った。さらに平成5年には隠岐島(西の島と知夫島)の放牧の視察も行った。人間が到底歩くことが出来ないような絶壁でも牛は簡単に歩いて登るのを見た私達は、山口県の水田放牧と隠岐島の放牧をプラスしたら自分達の地域でも可能であるかも知れないと思うようになった。

しかし、実現に向けてはかなりの勇気と夫の説得が必要であった。立地条件が悪く草刈が大変なために、背丈ほどにも伸びた雑草を見て、もはや猶予することは出来ないとして平成6年度に躊躇する夫の背中を押して、島根県で初めての水田放牧に着手した。

(2) 耕種農家。老齢化のため、家の前の転作田(0.8ha)の掃除刈りが労力的にできなくなったので、畜産農家に頼んで、放牧をしてもらって、綺麗にした。(いわゆる出前放牧の始まり)

(3) 農家の話しでは、「放牧を始めたいと思っている農家」に、「放牧を行っている農家が行って、直接アドバイスする」事が重要と言っていた。

(4) 普及機関や試験場が現地で放牧展示を行い、講習会を行う事が重要。

講習会では、まず、簡易型の電気牧柵の使い方を紹介し、その後、電気牧柵を使った放牧地の見学を行った。とにかく、農家自身が、放牧を行っている農家を見て、農家から直接話を聞くことが、放牧の普及に最も有効であった。最も大切なのは、婦人に放牧地に来てもらうことにつきる。



## 2. 放牧の導入がやりやすかった例

(1) 牛舎に隣接した運動場を持ち、頻繁に運動させていた。この結果、外気に牛が馴れ、牧柵から首を出して野草を食べたり、投げ込まれた野草を食べる事によって、自然に放牧馴

致が行われていた。しかし、この様な人でも、家の裏の放牧地に始めて放牧を行ったときは、心配で夜も牛を見に行った。

(2) 牛舎に隣接した放牧地(元水田)がある農家。

天候の悪い日は牛舎に入れたりして、とにかく牛を可愛がって放牧している。

### **3. 初めて放牧を行う時の注意**

(1) 運動場で外気と草に馴らす。

(2) 飛び跳ねる様な元気な牛は使わない。4歳以上の落ち着いた牛が望ましい(山口県のマニュアル)

(3) 電気牧柵に馴らす

マニュアル「どこでも放牧」に電気牧柵の馴致法が書いてあるが、自然に電気牧柵になれるので、何もしない。むりに鼻に電牧線を付けなくても良い、と言う農家もある。

### **4. 放牧の仕方**

(1) 初産牛(育成牛)の放牧のしかた

14ヶ月齢までは、舎飼しながら運動場で放牧馴致を行う。この間に、授精する。14ヶ月齢以降に放牧する。放牧期間中は、配合飼料を2kg/週給与する。放牧経験牛と一緒に放牧すれば問題はない。

(2) 放牧期間

時期は、4月~11月。牛は、子牛の離乳から分娩2ヶ月前が放牧に適した期間。実際には、妊娠確認した牛を放牧場につれていき、分娩1ヶ月前に牛舎につれ返る。

(3) 舎飼期に人工授精を行う。

(4) 放牧経験牛(教師牛)と一緒に放牧する。教師牛は他の農家から借りてくる(レンタル)。教師牛と一緒に運搬して放牧する事が望ましい。

(5) 放牧に出せる牛が一頭しかいないときは、他の農家の牛を借りてきて2頭で放牧する(レンタル放牧)。

### **5. 牛のつかまえ方**

牛には頬綱(頬掛)を付けておく。木の下に、1週間前から餌を持っていき、牛が集まるようにする。当日、電気牧柵のダミー線を張り、この中に牛を入れる。太い針金で作った鍵で頬綱を引っかけて捕まえる。または、手で頬綱をつかむ。



### **6. 牛の運搬**

トラックに載せて連れて行く。(2人いれば良いが、一人でも可能) 軽トラックに繋いで放牧場まで連れて行く。綱を付けて引いていく

### **7. シバ型牧草地の造成**

放牧地の草量は経年的に低下するので、早めにシバ型牧草地を造成するとよい。大田市では、共同放牧地の中にセンチピードグラスを不耕起追播したところ、2~3年目には草地化した。農家の評判は良い。

**会員募集中!** 協議会では会員を募集中です。会費無料、情報交換会へのご案内及びニュースレターの送付を受けられます。事務局までご連絡下さい。

## 参加者からの報告

### [ 東北農業研究センター ]

研究課題「寒冷地水田放牧のための適草種の選定と造成管理技術の開発」の経過報告。平成 14 年まで湛水休耕されていた水田を使い、高土壌水分条件から乾田化の過程における適草種の選定を行っている。開始時高土壌水分条件下、乾田化が進んだ条件下及びうまく乾田化が進まなかった場合の適草種の選定試験を実施。また来年度から試験地の拡大を計画中。

### [ 栃木県那須農業振興事務所 ]

現在、那須地域放牧利用研究会の設立に向けての準備が行われている。役員、及び域内の多数の放牧農家と放牧を希望・検討している農家の参画が決定しており、今年 12 月 10 日に設立総会を開催することが紹介された。

### [ 茨城県畜産センター肉用牛研究所 ]

耕作放棄地での放牧実証試験の経過報告。畑地放棄地における放牧が 2 回（20 日間と 33 日間）、水田放棄地における放牧が 1 回（50 日間）実施された。期間中外部説明会を開催し、新聞等に掲載され反響が大きかったことを紹介。概ね良好な結果を得ており、現在、繁殖和牛飼養農家の牛を放牧する段階に達している。また県単事業「いばらき農業元気アップチャレンジ事業」の説明と、事業へ参画予定であることが報告された。

### [ 群馬県畜産試験場 ]

いくつかの放牧事例を紹介。その中で、乳用牛の廃用個体を放牧に供することで再度乳生産が可能になった旨の報告があった。

### [ (社)中央畜産会 ]

休耕水田放牧にも利用可能な簡易畜舎の説明と農家の使用事例を紹介。現在販売されている 2 つの簡易畜舎（簡易キット牛舎、スタンダード牛舎）について面積、価格、安全性、普及性に関する説明があった。利用農家の意見を鑑みて、低価格性や簡便性の面で普及が期待される。ただし、畜舎に壁を取り付けた場合、風圧に対する安全性の検討が必要。

### [ 北原電牧(株)盛岡営業所 ]

耕作放棄地放牧で活用可能な電気牧柵「ハイプラポスト」(1 本直径 50mm、長さ 1800mm) の紹介。原料として廃物ペットボトルを利用し、低コスト、リサイクル、軽量化、高強度、簡易加工および絶縁性を実現したこと、および緊張器（NZ ストレナー）を用いた組み立て法が紹介された。

### [ 栃木県南那須農業振興事務所 ]

南那須管内ではこれまで肉牛農家、酪農家合わせて 7 ～ 8 戸が放牧を導入している。今年度 3 戸が新たに導入を検討中。放牧についての農協、役場の反応が鈍い。耕作放棄地や調整田などの利用促進のため農業委員に対する働きかけが必要。

**第 3 回 情報交換会開催！ 12 月 10 日(水) 13:00～15:30**

**畜産草地研究所(那須)GGホール 新しい牧柵システムの紹介などを予定しています**

連絡先：栃木県那須郡西那須野町千本松 768 畜産草地研究所 研究交流調整官

TEL 0287-37-7003 e-mail: furukawa@affrc.go.jp

ニュースレターの内容を転載する場合は事務局の許可を得てください。